

タイムの表紙を飾った初の日本人

無敵のバルチック艦隊を撃破した東郷平八郎

1848年1月27日鹿児島城下に生まれる、西郷隆盛、大久保利通、山本権兵衛、大山などが周りにいた。

イギリスに留学してその力の大きさに圧倒される

★1862 生麦事件が発生、翌年に薩英戦争。しかし、あまりの戦力差に驚く。その5年後に戊辰戦争-----この時、自分は軍人には向いていないのではと思った。

★1869 戊辰戦争終結-----大先輩の西郷に「英国留学」を直訴する。東郷は蒸気機関を学びたいと思っていた → すると、海軍のことを学ぶのならよい「海軍に平八どんは必要」と言ってもらい、24歳で留学する。

しかし、すぐに挫折する。希望した王立海軍兵学校はイギリス側の事情で入学を拒否されて田舎の学校へ、ここでは年下の子供たちに To go china とバカにされる。

★1875 卒業試験で世界一周する、この時イギリスの基地がどこにでもあり、海軍の力を見せつけられる。これは、西郷が言っていたことだった。しかし、その西郷は西南戦争で戦死する。もし、東郷が日本いれば、西郷とともに戦死していたかもしれない.....

★当時日本の軍艦はイギリスに発注して建造していたが、1878 出来上がった戦艦「比叡」に乗って帰国する。帰国後は海軍士官として活躍する。

軍艦だけでは勝てないと知る

★1894 日清戦争が勃発、戦艦「浪速」の艦長になる。清国は 7.500t 2 隻を含む 15 隻、片や日本は小型の戦艦 12 隻だった。しかし、東郷は清国の船を見た時、船内は汚い洗濯物が砲身にかけてあるなど規律が緩んでいると見た。そして、9月黄海で開戦。

東郷はフランスと清国の戦争をじっくり調べて研究し、大きな船は小回りができないのに対して、小さい船の機動力で日本が圧勝した。清国は5隻撃沈、日本は0だった。

★このあとロシアが清国に進出する。東郷はこのあと病氣療養と言って引き下がり、戦の研究をしていたと言う。

連合艦隊司令長官に

★1902 海軍大臣山本権兵衛に呼び出されて、連合艦隊司令長官に就任

★1904 日露戦争 ロシアの艦隊は強大だった、バルチック艦隊が来るまでに太平洋艦隊をたたくしかない → そこで旅順港の入り口封鎖をめざす → 失敗 相手もバルチック艦隊の到着を待つ戦法だった。

★1904 陸軍の乃木大将が旅順を攻撃して全滅させる。

ここで大事なことはバルチック艦隊がどのコースをとって、旅順に向かうかであった。津軽からか、対馬からか、これを見極めないことには作戦が決められない。

★ここで東郷は「あと一日待つ」……これはバルチック艦隊がどこの港に寄港したか、食糧・燃料をどれだけ積みこんだかなど、これまでもイギリスからの情報があったので、最後の情報を期待して待ったのだと言われている。

★「敵艦見ゆ」の警報に接し「本日天気晴朗なれど波高し」と打電、艦隊には「皇国の興廃この一戦にあり、各員一層奮励努力せよ」とZ旗を揚げた。

★東郷はT字戦法、世に言うトーゴー・ターンをとる。一列縦隊で敵艦に正面から向かい、8.000mになった時に「取舵一杯」で直角に曲がる。先頭艦が攻撃を一手に受けるが、この危険を乗り越えると味方の艦が、敵の先頭の艦を集中攻撃するのだ。

たった30分の戦いで壊滅的勝利を取めた。-----世界から驚きの声!!

★1905 日露戦争終結 東郷はT字戦法をとることを決めるのに、織田信長を破った村上水軍の戦いを研究したという。

その後アメリカがロシアとの講話の仲立ちをした